

## “日本発” 新型コロナ「レプリコンワクチン」に不安の声 厚労大臣が安全訴え

10/5 テレ朝ニュース



<https://news.yahoo.co.jp/articles/6alc2cf4ale893c9a056459923cfe18eb75e24a2>

10月1日から定期接種がスタートした、新型コロナの新しいタイプのワクチン「レプリコンワクチン」。ネット上などで不安視する声もある中、厚労大臣が安全性を訴えました。

### ■「他の人にうつるのでは？」新ワクチンに不安の声

新型コロナワクチンの定期接種の対象者は、65歳以上の高齢者と基礎疾患のある60～64歳の人です。そして注目は、世界に先駆けて日本で初めて認可された「レプリコンワクチン」です。日本の製薬会社Meiji Seika ファルマが製造販売を行います。その特徴は、従来のメッセンジャーRNAワクチンは、体内にウイルスのたんぱく質を作ることで抗体や免疫を獲得。その後、たんぱく質は消滅し抗体も減少していきます。一方、「レプリコンワクチン」は、メッセンジャーRNAを体内で増幅し量を増やしていくため、比較的長い効果を期待できるというのです。実際に使用されるのは日本が初めてで、「自己増幅」という特徴などから、インターネット上では、「体内でどこまで増え続けるのか」や「他の人にうつるのではないか」という不安の声もあります。厚労大臣は、

### ■厚労大臣が安全性を訴え

福岡厚労大臣

「ワクチン成分が伝播し健康被害が生じるという科学的知見はなく、安全性及び有効性が適切に確認された上で了承されたものであるというふうに認識をしています。ただ様々な懸念の声があることは承知していますから、今後とも科学的な知見の収集に努める」そして、副反応について。

福岡厚労大臣

「審議会ではワクチンの安全性に係る重大な懸念は認められていないというふうに評価をされています」

国内で行われた、レプリコンワクチンの臨床試験の結果、接種後、多くの人に接種部位の

痛み、そして、2割の人に37.5℃以上の発熱があった事が報告されていますが、重大な懸念には至っていないとのことです。

福岡厚労大臣

「中長期的な安全性とかにつきましては、申し上げた副反応疑い報告などの安全性の確認の中でしっかりと確認をしていきたい」テレビ朝日

明治HD系の新型コロナワクチン「少量で効果持続」 9/25 日本経済新聞



明治ホールディングス傘下のMeiji Seikaファルマは25日、新型コロナウイルスの変異型に対応したワクチン「コスタイベ筋注用」の説明会を開いた。小林大吉郎社長は従来製品と比べて少量でもウイルスに対処できる抗体の量を長く保てるとした。今回は約430万回分の供給を予定する。

コスタイベ筋注用は「レプリコン」と呼ばれるmRNA（メッセンジャーRNA）を改良したワクチンになる。小林社長は「従来より投与量が6分の1から10分の1と少量で済み、効果が長続きする。年1回の定期接種にはふさわしいと考えている」と述べた。臨床試験（治験）データを元に有効性についても説明した。

ワクチン製造については、原薬から製剤まで一貫して国内で生産する方針も明らかにした。医薬品の受託製造を手掛けるアルカリス（福島県南相馬市）と連携し、2026年以降に稼働予定の工場を含め「段階的に実現していく」（小林社長）という。

同社は13日、オミクロン型の派生タイプに対応した新型コロナワクチンの承認を取得したと発表していた。